

令和7年度第3回学校運営協議会議事録

さいたま市立上大久保中学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和8年2月20日(金) 10:00～11:30
[場所] 上大久保中学校会議室

2 参加者

出席委員	田澤 崇	(青少年育成栄和地区会会長)
	八木原 晃	(民生児童委員)
	南 崇子	(大久保東公民館長)
	小室 美香	(大久保東児童センター館長)
	目黒 良作	(さいたま市立大久保東小学校校長)
	山下 保夫	(さいたま市立栄和小学校校長)
	宇田 三郎	(上大久保自治協力会会長)
	渡部 秀之	(さいたま市防災アドバイザー)
	鈴木 法子	(さいたま市立上大久保中学校PTA会長)
	中野 睦美	(さいたま市立上大久保中学校前PTA副会長)
	高久 正行	(さいたま市立上大久保中学校校長)
	伊藤 一俊	(さいたま市立上大久保中学校教頭)
	金今 義則	(学校地域連携コーディネーター)
欠席委員	高柳 裕美	(青少年育成大久保地区会理事)
	井原光太郎	(土曜チャレンジスクール実行委員長)

3 次第

- (1) 開会宣言
- (2) 校長あいさつ
- (3) 本年度の学校運営について

学校自己評価システムシートについて

各委員より本年度の振り返り

年度目標1、学びの質の向上に関する取組について

校長から

- ・生徒一人ひとりの基礎・基本の定着を図るための統一授業モデル「上中スタンダード」を設定し、それをもとに授業をすることができた。
- ・学校評価「授業は楽しくてわかりやすい」に対する肯定的な回答は生徒95%・保護者66%であり、保護者については目標値を大きく下回る結果となった。保護者の肯定的な回答が目標値に届かない現状があるため、次年度は授業公開週間を設ける等、保護者が授業を参観できる機会を増やす。

- ・新しい学習用端末が導入されることに伴い、ICTの活用が図られるよう教職員の研修をすすめる。

- ・基礎基本の定着をすすめながら、個別最適協働的な学びの一体的充実を図りたい。

家庭学習について昨年度は上回ったもののまだ課題が残る。端末を利用していきたい。

各委員から

- ・授業の充実はとても大切なことだと思う。個人を意識して、個別最適な学びを大切にしてほしい。

- ・上中スタンダードを取り入れ、毎時間の授業を大切に行っていることがわかる。基礎基本を大切にしたい授業ができている。

- ・上中スタンダードを積み重ねていくことで、学力は伸びていくと思う。

- ・上中スタンダードを継続して行っていくことで、基礎基本の定着、学力の向上につながっていくと思う。

- ・家庭学習は簡単にできるものではない。幼児教育、小学校とつながっていくことが重要だと思う。保護者、地域と協力して学習スタイルを作り上げていくことが大切だと思う。

- ・中学生になると家庭学習は、自分の部屋で学習することが多くなり、子どもと親との評価の差になっているのではないか。

- ・家庭学習に関して保護者と子どもの数値の違いは、小学校でも中学校と同じような状況である。生徒と保護者の数値の違いは、保護者が、もっと勉強してほしいという願いが数値につながっているのではないか。

- ・ICT 機器の活用など先生方が学ばなければならないことがたくさんあって大変だと思う。

- ・地域の行事などで中学生を見ていると、スマートフォンをうまく活用している。保護者が、生徒の状態を把握しにくくなっているのではないか。

年度目標 2、子どもの発達や心のサポートに関する取組について

校長から

- ・教職員による学校評価における肯定的な回答は、「学級活動」100%、「学校行事」96%、「生徒会活動」96%であり、すべての項目で目標値を上回った。

- ・生徒による学校評価、質問項目「学校生活は楽しいですか」の肯定的な回答は96%ではあったが、目標値は下回った。

- ・不登校生徒数が減少しないところは、課題となっている。Sola る一むの活用もすすんでいる。

各委員から

- ・「学校は楽しいですか」という質問の肯定的な数値に表れていない子どもを分析し、原因を取り除くような対応ができればよい。
- ・全体的によい結果がでている。「学校は楽しいですか」という質問についての肯定的な意見が多い。
- ・「学校生活は楽しいですか」の肯定的意見96%は、素晴らしい結果だと思う。
- ・学校が行きたくないときの対応は、いろいろな理由があり対応が難しい。
- ・学校の中で、学習以外例えば部活動など1つでも楽しいことを見つけられたらよいと思う。
- ・家庭が不安定だと、学力、問題行動、不登校など多感な時期の子どもに影響する。
- ・子ども一人ひとり家庭環境が違う。子どもにかかわる大人が丁寧に子どもと向き合うことで状況が変わってくると思う。

年度目標3、地域とともにある学校づくりに関する取組について

校長から

- ・ボランティア等への参加生徒はのべ62人で、目標値を下回ったが、初めて地域夏祭りや桜区音楽会への生徒参加が実現できた。
- ・防災教育の視点に立った取組を次年度も継続していく。より多くの生徒が参加できるように日程を早めに周知する等、生徒募集の方法を工夫していく。
- ・「寿楽荘」と連携できるようにしていきたい。

各委員から

- ・防災について、中学生が地域で活躍できる場を大切にしていきたい。
- ・「寿楽荘」において、未来くるワークや吹奏楽の演奏など中学生とのかかわりができればよい。狭いけれどもうまく連携できるとよい。
- ・公民館で、2年間中学生向けの防災講座を実施し、防災マスターになってもらった。中学生を地域で活躍させることで、中学生の元気や行動、明るさなど地域の人も学ぶことができる。中学生が活躍することで地域が育つ。地域が活性化する。
- ・来年度は、桜区防災訓練を大久保東公民館で実施するので、中学生にもかかわってほしい。

年度目標4、教育環境の整備に関する取組

校長から

- ・教職員による学校評価における「環境教育・緑化教育」の肯定的な評価は

93%で、昨年度は上回ったが目標値は達成できなかった。校内緑化の推進に向け、生徒の意見を取り入れながら、家庭や地域と連携して取り組んでいく。

各委員から

- ・校内緑化は、大切なことだと思う。かぶれ等に気を付けながら行ってほしい。
- ・学校の美化は、近隣の高校でも花を育てている学校があるので、高校と連携協力して花を植えるなどの緑化活動を行えるといい。
- ・季節ごとの花がいっぱいになるとよい。
- ・前回の学校運営協議会でも、花を植える活動について意見が出ていたがぜひ実施してほしい。

目標5、教職員のキャリア形成に関する取組について

校長から

- ・教職員相互並びに管理職による授業参観を実施した。次年度は全ての学校で教員同士の相互授業観察が実施されることを踏まえ、計画的に実施できるようにしていく。
- ・教職員の働き方について、時間外勤務時間は昨年度に比べて減少はしているものの負担感、多忙感の高さが課題である。

各委員から

- ・教職員の相互授業参観は、今までも行っていたことなので負担ではないが、やらなければならないとなると負担感を感じてしまう。負担感を少しでも減らせるとよい。

(4) 次年度の学校運営に関する基本的な方針の説明および仮承認

全員一致で仮承認

(5) 本日のまとめ（副会長）

今日は、素晴らしい検討をすることができた。中学生が地域行事に参加することで、地域も元気になっていく。令和8年度の地域行事について、公民館でまとめたものがあるので周知してほしい。これからも中学生のために、学校、保護者、地域で協力していきたい。

(6) 事務連絡

令和7年度学校運営協議会委員アンケート調査について

回答期限3月16日（月）

令和8年度の学校行事計画について

(7) 閉会宣言